

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 令和元年度 第6回
開催日時	令和2年1月21日（火曜日） 午後6時00分から8時00分まで
開催場所	田無庁舎 5階 503会議室
出席者	出席：小澤委員長、石崎副委員長、安田副委員長、荻草委員、喜多野委員、小林委員、篠宮委員、堀内委員、山田（尚）委員、山田（裕）委員 欠席：井上委員、小松委員、佐々木委員、田村委員、中村委員 事務局：白井課長、福田係長
議題	(1) 第5回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について (2) 西東京市第4次男女平等参画推進計画の評価方法について (3) その他
会議資料の名称	【配布資料】 (1) 第5回男女平等参画推進委員会会議録（案） (2) 評価方法論点整理 (3) 委員会評価報告書レイアウト（案） (4) 西東京市第4次男女平等参画推進計画 委員会評価手順（案） (5) 各課事業別評価報告書レイアウト（案） (6) 重点課題別評価報告書レイアウト（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>【開会】</p> <p>○委員長：これより第6回男女平等参画推進委員会を開催する。 事務局より委員の半数以上が出席しており委員会が成立している旨の報告をした。 続いて事務局より配布資料の確認をした。</p> <p>（1）第5回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について</p> <p>発言者による趣旨が伝わる表現への修正、誤字の修正等計4か所修正あり。その他異議なく承認された。</p> <p>（2）西東京市第4次男女平等参画推進計画の評価方法について</p>	

(資料2～6について、事務局から順に説明。)

- 事務局：なお、レイアウト（案）に入れたコメントやABC評価は仮に入れたものである。評価方法（案）全般について、ご意見をいただきたい。
- 委員長：確認だが、委員会は各課事業別評価報告書を見ながら別紙の委員会評価報告書に評価を記入する、ということでしょうか。ABCD評価の点数化は自動計算でできるようにするのか。
- 事務局：書式が別々になるが、各課の評価を見て委員会評価を行うのは今までと同じである。点数化は自動計算でできるようにしたい。
- 副委員長：かなり客観的な評価ができると思う。委員会評価として公表するのはABCD評価で、数値については説明を求められた場合に根拠として示すようなイメージか。
- 事務局：おっしゃるとおりである。
- 副委員長：資料5について。「課題把握」は現状の課題をただ書くのか、次年度の目標を書くのか、何を書けばよいのか各課にハッキリ伝えたほうがよい。各課がどのように書いてくるのか、イメージがわからない。
- 副委員長：委員会が評価する時点で次年度の各課の計画内容がすでに決まっていると、計画内容が施策と合わなかった場合、どう調整するのか。評価は「執行状況」、「課題把握」、「次年度の計画」の順で行った方が、計画段階で修正を求められることができ、循環が良くなると思うがどうか。評価する時期などにもよると思うので、確認・共有したい。
資料6の3つの施策評価から重点課題評価のABCD評価を導き出す計算式は？
- 事務局：各課評価を積み上げて施策評価を算出するのと同様に、施策評価の結果を積み上げて重点課題別評価を算出できるようにしたい。計算式は今後お示ししたい。
評価の年間スケジュールですが、3月末に各課にその年度の執行状況の評価と次年度の課題、次年度の具体的な取組み計画について作成・提出を依頼する（4月に担当者が異動すると評価が難しくなるので）。委員会には前者のみお示しして、それに対して評価をさせていただいている。次年度の具体的な取組み計画については事務局でチェックし、施策内容と明らかにずれているものなどについては各課と調整し、修正をお願いする場合もある。執行前の時点で委員会にチェックしていただく流れにはなっていない。
- 委員長：計画の初年度はいずれにせよ仕方がない。一度結果を見て、それに対して委員会で評価を行い、それを受けて各課が適切な計画内容に修正するかどうか、ということになる。
- 副委員長：副委員長は次年度の取組み計画を評価することが大事ではないか、というご意見ですね。
- 副委員長：課題を把握してすぐ次年度の計画を作るので、その時点でもし見直しが必要と思われるものがあれば調整を行えば、翌年度は執行状況から評価することができる。
- 副委員長：委員長がおっしゃったように、計画1年目の今年度はすでにほぼ終わっている。今年度の各課の取組み計画について、今意見を言っても遅いという現状がある。そこで今年度の取組み計画とその執行状況について来年度になってから評価した結果、計画が施策とあまりにもずれているものがあれば、委員会がそう評価（指摘）する。来年度の取組み計画として委員

会の指摘と合わない取り組み計画を立ててきた課があれば、事務局が調整する、ということですね。

○副委員長：今年度は仕方がないが、来年度からは変更できる。もう済んでしまった取り組み計画に対して後から評価するのではなく、当年度執行状況と翌年度の取り組み計画を評価したほうがよいように思う。

○事務局：次年度の取り組み計画については、「次年度の課題」に対する委員会評価を踏まえて策定されるはずなので、そこを評価することで、適切な取り組み計画を促すことができる。

○副委員長：委員会評価が活かされてうまく循環していけばいいと思っている。事務局もスムーズに担当課と調整できて、やりやすいやり方であればいいと思う。

○委員：事務局のやりやすい方法でよいと思う。今まで評価の差に悩んでいたところを割り切って評価できたら、それはそれで有意義なのかなと思う。

○事務局：各課は年度末に当年度の評価を行い、次年度の計画を立てる。委員会は「次年度」になってからその「次年度」計画に対して評価を行うので、その評価を当該年度の各課計画に反映（修正）させようとする、時間的に厳しい。委員会評価を受けて翌年度の各課計画に活かしてもらおう、というのが第3次計画の流れであるが、第4次計画でも同じ流れでよいかと思っている。各課が委員会評価を受けて、次年度に予算を伴う計画を実施しようとした場合に、予算計上に間に合うよう、次年度予算編成前に評価を終えて、各課に伝えてきた。次年度の各課の計画を評価し、場合によっては修正を促すのであれば、評価の時期を変更しなければ難しい。

○副委員長：各課は「次年度の課題」に対する評価をよく読んで、次年度の計画に活かしていただければよいのではないか。今年は委員会から各課の計画に対する厳しい意見が出たので、事務局は大変だと思うが各課と調整して、的確な計画を作ってもらえればよい。

○委員長：各課が次年度の計画を策定した段階で、委員会が評価して各課にフィードバックし、それを受けて各課が計画を見直すなどしてから次年度を迎える、というのがわかりやすいのだと思うが、実際は評価している間にも事業が進んでいるので、常に時期が重なり合いながら進んでいるわけですね。

○委員：評価した結果をすぐ翌年に反映させるのは難しい。年度が終わってから評価すると、評価結果が各課計画に反映されるのは翌々年度になる。そうしないためには年度の途中で評価するなどしなければならない。

○副委員長：事務局に負担がかかるが、委員会の評価を各課に伝えて、年度の早い時期に各課に計画の見直しを働きかけてくれるところが重要になる。

○委員：確認だが、各課の計画について事務局が修正を求めて修正されたものが委員会に上がってくる、ということでしょうか。

○事務局：そうである。ただ、そうしたうえで委員会に提示したものが、委員会から見ると計画に問題がある、と判断されることはあると思う。

○委員：これまで修正を求めても修正せずに提出してきた課があったのか。

○事務局：これまでは例えば施策に対して的外れな計画になっていないか等ということはチェッ

クしていたが、前年度の委員会コメントで見直しをと書かれていても前年度と同じ計画内容を書いてきた課があっても、調整などはしていなかった。今後は事務局が事前によくチェックしていきたい。

- 委員：委員会が計画の見直しを促しても見直さずに毎年同じ計画を立ててきたとしても、それをきちんとやっていたら、「やっている」という評価になるのか。
- 事務局：施策の内容に合致していれば「合致している」という評価になる。きちんと執行していれば「執行している」という評価になる。ただ目標設定に課題があればその評価が低くなるはずで、細かく評価することで、どこに課題があるか明確になる。
- 委員：コメントが重要になってくると思う。計画内容と次年度の課題の把握はよくできていて、ただ執行していない、という場合は例えば執行はC評価で他はA評価、トータルではB評価、などとなると思うが、執行していないことについてコメントにしっかり書けばよいのか。
- 事務局：他の自治体の例で、1つでもD評価があった場合は全体評価をDとする、などというものがあったように記憶している。執行していない場合は計画や次年度の課題が良くても全体評価はDやCとする、ということは考えられるかもしれない。検討したい。
- 委員：例えばD評価となった場合など、担当課にヒアリングが必要だと思うが、ヒアリングは直接担当課と委員会の間で行った方がよい。その結果も議事録などに残し、情報公開コーナーで公開するなど、市民に知ってもらえるようにした方がよい。大変だとは思いますがヒアリングに対しては積極的に取り組んでほしい。
- 委員：課題がないと開催されない審議会がある。そういうものに対する評価は何年もCやD評価が続くことになるが、そうした場合担当課長に来ていただき、事情を聞いて改善の余地がないものは対象から外すなどしたらいいと思う。
- 事務局：資料について補足したい。資料3の課別評価の評価コメント欄は、平成30年度の委員会評価コメントを転記したものだが、「施策全体についての評価」欄は皆様がイメージできるように事務局が仮に書いたものである。課別評価欄にやや詳細な記載がされているので、施策全体については総括的なコメントを簡潔に記述をしていただければよいと思っている。どの分野の取組みが進んでいるのか、遅れているのかがわかるようにしたい、というのが施策評価を行う意義だと思いますので、その点を意識していただいて、コメントをいただければと思う。
- 委員長：資料4の「評価上の着眼点」について、例えば資料の収集や図書の貸し出しなど、これらの着眼点から評価しにくい事業もある。7つの着眼点は参考程度でよいのか。
- 事務局：評価の際の指針として考えていただければよい。判断に迷った時なども、ここに立ち返っていただければと思う。
- 副委員長：評価上の着眼点は、委員会と担当課の両方に共通のものか。
- 事務局：そうである。いくつの自治体で、それぞれ独自に着眼点を規定しているが、それらを参考に設定したものであるため、ご意見をいただき、良いものにしていきたいと思う。
- 委員：LGBTの視点を入れられないものか、と思う。今後は男女以外の視点も必要だと思う。
- 副委員長：2の「性別等」や「差別」「人権侵害」という表現でカバーできるのではないのか。

- 委員：「性別等」とあればそれ以外にも何かある、というのはわかると思うが、LGBTについての程度市職員は理解されているのか。
- 事務局：昨年度から庁内向けに年に3～4回のペースで、男女平等に関するニュースを流しているが、その中で「LGBT」について簡単な説明を載せたので、それを見た職員は知っていると思う。他に講座の市民向け講座を職員にもPRしたりしている。
- 委員：「等」だけでLGBTがすぐ想起されればよいが、見落とされたりしないかという心配がある。
- 事務局：「着眼点」は一度決めたら5年間変えられないというわけではないので、随時修正していくことはできる。
- 委員：委員会の委員が「等」の意味を把握していればいいのではないかな。
- 事務局：市では人権に関する相談や啓発も行っているもので、職員には定着していると思う。今後必要だということになれば変えていけばいいと思うが、今は人権という着眼点でよいと思う。計画の中でも性自認・性的指向という言葉が今回初めて使い、これまでより一歩踏み込んだ、という段階である。
- 事務局：6.「前年度の取組みに課題があった場合、その指摘を踏まえ取組みの改善・工夫を行ったか」というところは、皆様からのご意見を踏まえ、強調したところである。
- 副委員長：計画の資料に「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が入っている。男女共同参画基本法よりも同条約の方が内容が具体的なので、7.に同条約も入れたほうがよい。委員の方にも一度はこの条約に目を通していただきたい。
- 事務局：職員にも意識してもらおうきっかけになるかもしれない。
- 委員長：評価方法について、「計画」「執行状況」「次年度の課題」に分けて評価するのであれば、課ごとにまとめず、事業ごとに評価したほうが評価しやすくないか。
- 事務局：その通りだが、同一施策内に複数の事業がある課は協働コミュニティ課を除けばそれほど多くはないと思う。各課の取組みに対してコメントすることに主眼を置けば、課単位でよいと思う。従来の事業別評価に加えて施策評価も、となると作業量がかなり厳しくなる。
- 委員：課別評価にすると、評価項目数はどれくらいになるのか。
- 事務局：事業数が219、課別評価にすると157、うち審議会・委員会の委員の男女比に対する評価が27ある。男女比の評価をある程度まとめて行うなどすれば、130～140程度になる。
- 委員：資料3のレイアウトについて、太枠で囲んだ「課別評価」を網掛けしたほうが見やすい。また、資料4の「計画内容評価」の評価基準について、C評価が「施策のない世に関連している事業」となっているが、下から2番目のC評価にしては内容が悪くないように感じるが、いかがか。
- 委員：4段階でC評価はかなり低い、「関連している事業」であれば悪くないイメージである。
- 事務局：例えば「合致しているまたは関連している」をB、「関連が薄い」をC、Dは「見直しが必要」、などとした方がよいか。
- 委員：現在の評価基準に比べてハードルが上がっていると思う。

- 事務局：「執行状況評価」についても「計画どおり」をA、「概ね計画どおり」をBくらいにしたほうがよいか。曖昧な表現にすると判断が難しくなるが、他の自治体ではそのような表現が多いのも事実ではある。
- 委員：基準の文言は今決めたほうがよいと思う。
- 事務局：そうしたい。まず「計画内容評価」の基準について、Bは「施策の内容に合致しているまたは関連が深い事業」、Cは「関連が乏しい事業」、Dは合致していないとか、見直しが必要などの文言にするということによいでしょうか。（同意）
- 委員長：執行状況評価について、「計画より一歩進んだ」というのは難しいのではないか。
- 事務局：オーソドックスなのは「計画どおり」がA、「概ね計画どおり」がB、ということになる。
- 副委員長：Dは「未執行」だけでよいのではないか。
- 事務局：整理するとAが「計画通り」、Bが「概ね計画どおり」、Cが据え置き（計画より若干遅れている）、Dが「未執行」ということにします。
- 副委員長：Cの「若干」とうのも分かりにくい。
- 事務局：「遅れている」だけとする。「概ね」とはどの程度なのか、などということについては今後の委員会で議論していただき、できるだけ共通の感覚・認識を持てるようにしていきたい。
- 副委員長：「課題把握評価」の目安？の「次年度事業の」を取ったほうが簡潔でよい。
AとBは課題を「把握」、CとDは課題の「見直し」となっているが、「把握」にそろえたほうがいいのでは。
- 事務局：執行状況評価に合わせれば、Bは「概ね把握している」、Cは「把握が不十分」、Dは「把握ができていない」、または「課題の見直しが必要」などとしたい。
- 委員長：この評価方法で評価するのは次期の委員ということになるのか。
- 事務局：7月末に任期が終わり、変わられる委員もいらっしゃると思うが、8月から評価を始めて10月に評価を終わらせるのは難しいので、皆様に5月頃から評価をお願いしたいと考えている。評価途中で委員が変わられる可能性はあるが。
- 副委員長：新しい委員の方にやっていただいたほうがわかりやすいと思う。
- 事務局：来年度の評価時期については検討する。
評価方法については修正したものをお送りする。本日欠席されている委員もいらっしゃるのでは、皆様に見ていただき、次回の委員会でご承認いただけるようにしたい。

(3) その他

- 事務局：時価委員会は2月25日、502会議室で午後6時から開催する。
市長への答申は、議会の合間に行わせていただきたい。休会日などを選んで設定する予定だが、議会の日程が決まり次第、ご案内させていただきたい。答申書は第3次計画の評価と、第4次計画の評価方法について、を答申書にまとめて、市長に答申します。
また、前回の委員会でお話のあった、第3次計画で5年間C評価だったものについて特記する

という件は、どのような形にするか。

○副委員長：いくつあったか。

○事務局：1つか2つです。

○副委員長：1つか2つなら、そのことを委員会評価コメントに追加してはどうか。

○事務局：総評の部分に加えるなど、考えてみる。

○委員長：本日はこれにて散会とする。お疲れさまでした。

【閉会】